

「Claude Fable 5」 停止の衝撃：IP実務者が知るべき事実と対策

2026年6月12日、米商務省の輸出管理指令により、Anthropic社の最新モデル「Claude Fable 5」および「Claude Mythos 5」の全世界での利用が突如停止されました。この停止は技術的な故障ではなく、「国家安全保障上の懸念」を理由とした規制によるものであり、特に「外国人によるアクセス禁止」という異例の措置が取られました。Anthropic社の最大出資者であるAmazonが脆弱性を政府に通報したことが引き金と報じられています。この事案は、高性能AIモデルが「ソフトウェア」ではなく「軍需品」並みの国家統制下に置かれ得る前例を作りました。特に日本のIP実務モデル、データのモ畜性した存さもあつです。前例を作りました。特に日本のIP実務においては、特定モデルへの依存リスクと、Mythos級モデルにおける「30日間データ保持義務（ZDR不可）」という機密保持上の致命的な障壁が浮き彫りになっています。実務者は、単一モデルに依存しない「モデル非依存」の体制構築が急務となっています。

停止の事実関係とタイムライン



2026年6月9日：待望の一般公開
Claude Fable 5（一般向け）とMythos 5（限定版）が公開。主要ベンチマークで最高性能を記録。



2026年6月12日：米政府による停止指令
米商務省が「外国人によるアクセス禁止」を指令。Anthropicは適別が不可能なため全ユーザー向けに停止。



Amazonによる「異例の通報」が発端
AmazonのCEOが、Fable 5からサイバー攻撃に利用可能な情報を引き出したことを政府へ報告したことが引き金。

IP実務を揺るがす「2大リスク」

30日間のデータ保持義務（ZDRの消滅）



Mythos級モデルは信頼・安全目的で全入出力を30日間保持。ゼロデータ保持（ZDR）設定は強制的にエラーとなる。



弁護士秘匿特権の適用除外リスク：
30日保持+人的レビューの対象となるモデルに入力された情報は、秘匿特権やワークプロダクト法理が適用されない恐れがある。



特定モデルへの依存が招く供給途絶

最先端モデルが一夜にして利用不可になるリスクが顕在化。単一ベンダーに依存したワークフローは脆弱。



IP実務における代替モデルの選択肢

モデル名	ZDR（データ保持ゼロ）	特徴・用途
Claude Fable 5	不可（30日保持）	現在停止中。最高性能だが機密業務には不向き。
Claude Opus 4.8	可能	稼働継続中。Fable 5の推奨フォールバック先。
GPT-5.5	可能	消去法で最上位の利用可能モデル。低コスト。
Gemini 3.1 Pro	可能	超長文脈対応。特許文献の大量処理に有利。
オープンウェイト	自社管理	最高水準の機密性。政府による停止が不可能。

日本のIP実務者が取るべき推奨アクション



即時：フォールバック手順の文書化
Fable 5の代替として、Opus 4.8、GPT-5.5、Gemini 3.1 Pro等へ即座に切り替えられる手順を整備する。



短期：モデル非依存（Model-agnostic）設計の導入
特定の提供者に依存しないルーティング層を導入し、最低2社の提供者を確保する体制を構築する。



中長期：ソブリンAIと特化ツールの評価
高機密業務には、ZDR保証のある特許特化ツールや、政府が停止できないオープンウェイトモデルの自社ホスティングを検討する。